

# 情報機器の流れ

## 駅務機器

## ドラステム機器

1946 電子計算機 ENIAC 誕生

1952 MIT フライ盤を公開

## 改札機

1967 自動券売機、自動改札装置の無人駅システム実用化開始

## メカ・プロッタ

1968 自動製図機完成 造船所多数社に納入

## NC 応用化製品

1970 帯鉄マーキング・引張試験片測定器開発

## 定期券発行機

1973 ドライシシバ 3M 社 券紙に、マイクロフィルム印刷方式の発行機を、京王帝都電鉄へ納入

1974 乾式電子写真印刷方式の発行機を、京王帝都電鉄へ納入

1976 自動改札機に対応可能な磁気エンコード付定期券発行機を開発、東急電鉄へ納入

1978 ワイドドット印刷方式の発行機を開発、東武鉄道（東上線）他へ納入

1979 感熱転写印刷方式の発行機を日本で初めて開発し、JNR 浜松駅へ納入

1982 シールレス磁気定期券とロール紙の乗車券を発行できる乗車券印刷発行機を JNR へ納入開始

1985 2つの券紙紙バーを装備し、制御部を一体化した発行機を東急電鉄を始め、各社へ納入開始

## 車内補充券発行機

1975 JNR 鉄道技術研究所と車内補充券発行機の開発研究を開始

1971 自動券売機と改札を一体化した券売改札機を小田急電鉄に納入

1975 券のベルト搬送方式とした自動改札機を京阪電鉄に納入

1970 ミニコン + ストアードプログラム方式自動製図機開発

1973 電力計計測装置・テーププログラマ開発

1975 パイプ切断機・溶接機パイプ加工機開発

1976 3次元測定器開発

## ラスター・プロッタ

1979 世界最高速ドラム型プロッタ D9000 開発

1982 世界最高速スプロケットドラム型プロッタ D7000 開発

1982 大型表断機好調

1982 DRASTEM 静電プロッタ開発開始

1983 糸針制御装置 A0A1 静電プロッタ開発

1984 座標読取ベクトライザの開発

1985 A3LBP 開発

## 画像処理

1986 版下作成システム TINTACE 開発

1986 イメージスキャナ開発

1987 サマシ 2色プロッタの発売 カラー静電プロッタ開発

## 自動定期券発行機

1988 グリッドカード専用の自動定期券販売機を開発、東急電鉄に納入

1990 JR 全駅を発売対象とした車内補充券発行機を開発し、JR 東海、JR 西日本等へ納入

1994 操作表示部にタッチパネル付 LCD 表示器を使用し、正面接客可能な発行機を東急電鉄を始め、各社へ納入開始

1995 パソコンと接続し定期券、中長距離券が発行できる小型券売機を開発し、JR 西日本等へ納入開始

1995 現金での購入が可能な定期券売機を東武鉄道に納入開始

1995 メモリの大幅な容量アップし、高速処理の車内補充券発行機 JR 西日本等へ納入開始

2001 印刷部を分離し、各工点を自由にアウト可能な発行機を東京都交通局へ納入開始

2002 IC 定期券発行工点を開発し、東京メトロ等へ納入開始

1997 ID モノ磁気券対応の車内補充券発行機を京阪電鉄等へ納入開始

1997 精算判定処理工点を JR 西日本等へ納入開始

1995 額縁シート表断機、紙器サンプルカット機開発

2002 大型製図機の生産中止した

2002 TSK と DEK が合併し、TSK にてプロッタを販売

1989 プロッタのメンテナンス会社 DEK を設立 その後プロッタを販売

1990 普通紙 A1LBP 開発

1991 マルチパス静電カラー開発

1992 普通紙 A0LED 開発

1993 普通紙 A1LED 多段ロール開発

1994 普通紙 A0LED 多段ロール開発

1995 ~ 2000 普通紙プロッタ A0、A1 の改良および静電カラープロッタの改良が盛んに行われた

1997 A0 カラーインクジェットプロッタ開発

2002 A0 モノクロスキャナ開発

